



他省庁出向中 辰己 裕基

平成21年採用（国家Ⅱ種）

金融庁で勤務していた期間（平成28年7月～令和4年）

◆仕事内容

私の所属していた信用機構対応室は、金融危機が起きた場合に、危機が拡大しないような対応をするとともに、金融機関が万一破綻した場合に、預金保険機構と協力して預金者の保護のため、円滑に破綻処理を行ったりします。金融危機が起きていない現在は、金融危機が起きた場合に備え、金融情勢に合わせた破綻処理方法の見直し等の検討を行っています。

また、預金保険機構や整理回収機構等に対して、業務及び組織の適正な確保のために監督業務を行っています。



（筆者は前列右から2番目）

◆仕事の魅力、やりがい

室内の総括・調整を行う係を担当し、国会対応や室内の取りまとめを主な業務としておりました。また、これまでの金融機関の破綻処理にどれだけ公的資金が注入され、どれだけ回収されたか等を取りまとめ、報告書として作成・公表したりもしています。東京で仕事をしているからこそ経験できたと思えることも多々あり、例えば、作成した報告書の配付のために国会議事堂や総理官邸等、普段入ることのできない場所に立ち入る機会に恵まれたのは、貴重な経験だと感じております。

「霞ヶ関は不夜城だ」とは、地方にいれば誰もが想像することで、私も意を決して東京に来ました。確かに時期によっては不夜城と化している部署もありますが、年中通してというわけではありません。東京勤務に興味があれば、長い社会人生活なので、一度は出向してみるのも良い経験になるのではないかと思います。

◆近畿財務局を志望した理由

私が近畿財務局を志望した理由は、自身が抱いていた公務員のイメージを職員の方に良い意味で変えられたと感じたからです。業務説明会において説明されていた職員の方から、業務に対し前向きに、そして積極的に日々取り組まれている熱意を感じた一方で、オフの日には職員同士で野球やサッカー等のレクリエーションを精一杯楽しみ、充実した日々を過ごしているという話に興味をもったことが、近畿財務局に魅力を感じた始まりでした。このような職場に自分も身を置くことができれば、社会人として充実した日々を送れるのではないかと思います。少し大げさに聞こえるかもしれませんが、当初抱い

ていたイメージは今でも変わっておらず、この職場に入ったことに満足するとともに感謝しています。

また、様々な分野（業務）の仕事があり、それらを経験できることも自分にとっては魅力の一つでした。「分野（業務）が変わると大変だ」と思うかもしれませんが、研修制度が充実していることに加え、上司等、周りの方がフォローしてくれるので、一人で悩むことなく、伸び伸びと仕事に取り組むことができます。

◆近畿財務局の自慢、その他職場の雰囲気など

とりわけ若手職員の仲が良いのではないかと感じております。採用された年次に関係なく、若手でスノーボードやマラソン等のレクリエーションを企画したり、旅行に行ったりしています。それが風通しの良さにつながっており、また、多くの若手がレクリエーション等の企画に奮って参加しているということが風通しの良い職場であることの証明にもなっているのではないかと思います。

◆財務局を志望する方へのメッセージ

この職場で、この仕事をやりたいと思い、その職場に入ったのに、いざやってみると「思っていた仕事内容ではなかった」という落胆の声は多々聞きます。私は職場を選ぶ際に、仕事はやってみないと分からないため、職場の雰囲気が自分に合いそうかどうかを第一に考えました。これは業務説明会に多く参加することで、様々な職員と出会うことができ、職場の雰囲気を感じ取ることができます。

官庁によって雰囲気は千差万別。実際想像していた仕事でなくても、自分に合う職場環境であれば、自然と仕事も捗るはず。これは、実際に他官庁の説明会に参加し、自分に合いそうかどうかを感じとるほかないと思います。皆様にとって良い職場に出会えるよう、応援しています！

